

一般社団法人 千葉県中小企業診断士協会

# 60周年記念誌



一般社団法人  
千葉県中小企業診断士協会



一般社団法人 千葉県中小企業診断士協会





# C O N T E N T S

ごあいさつ 千葉県中小企業診断士協会 会長 今井 和夫	1
60周年祝辞 千葉県商工労働部部長 吉野 毅	3
一般社団法人 千葉県商工会議所連合会会長 佐久間 英利	4
千葉県商工会連合会会長 和泉 善久	5
千葉県中小企業団体中央会会長 平 栄三	6
一般社団法人 中小企業診断協会会長 米田 英二	7
千葉県協会を取り巻く経営環境を振り返って 「どういうところで経営者に夢を与えられるか、そこが大切」 千葉県中小企業診断士協会 副会長 江波戸 勝	8
【特別寄稿】 ～人と出会って45年～ 千葉県中小企業診断士協会の歴史を紐とく 千葉県中小企業診断士協会 顧問 大塚 慎二	14
年表で見る中小企業施策の変遷	16
千葉県のできごと・千葉県協会支部長の変遷	20
各部の取り組み	22
千葉県中小企業診断士協会 組織図	23
業務分掌（令和元年度）	24
各部のミッション（令和元年度）	25
研究会紹介	26
研修部委員活動紹介 ～研修の企画・運営に主体的に関わっています～	30
診断士祭り実行委員活動紹介 ～頼られる裏方を目指して頑張っています～	31
千葉県協会の将来展望 広く多くの人から頼られる協会となり続けることを目指して 千葉県中小企業診断士協会 副会長 山本 満	32
千葉県協会の定例イベント・研修会 ～これからも魅力的なイベント・研修会を企画していきます～	34
60周年記念誌編集委員紹介／編集後記	35



## ごあいさつ

一般社団法人 千葉県中小企業診断士協会  
会長 今井 和夫

本年で一般社団法人千葉県中小企業診断士協会が創立60周年を迎えることができました。これはひとえに千葉県を始めとする中小企業支援機関、金融機関各位のご支援、ご愛顧の賜と御礼申し上げます。また、これまで当協会の活動に長きにわたってご参加していただいた会員の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

また、昭和34年に社団法人中小企業診断協会千葉県支部が創立され、平成24年に一般社団法人千葉県中小企業診断士協会が設立されましたが、60年にわたって多くの支部長、会長の諸先輩方のリーダーシップによって当協会を導いていただきました。現在、私が禊（たすき）を受け継いでおりますが、諸先輩方のご努力、ご支援があってこそこの60周年であることを深く感謝申し上げます。

現在、千葉県内の中小企業、小規模事業者は、地域の人口減少や少子高齢化、自然災害の多発化、グローバル化、ICT技術の進展等の外部環境がめまぐるしく変化しており、それに伴って人材不足や働き方改革などへの対応のためのITの利活用等による生産性の向上、経営の革新、事業継続力の強化、そして事業承継等の多くの課題を同時に抱えております。

この様に先々がなかなか見えないなかにあって、企業の現状をしっかりと把握し、未来を照らして元気づけ、そして未来に向かって多くの課題を解決しながら伴走支援していくことが、我々中小企業診断士の最大の使命です。事業分野の専門家であり、かつ、未来志向の支援者である中小企業診断士の活動領域は、今後ますます拡がり、活躍する場面が増えていくことと思われまます。



当協会としては、千葉県内の中小企業、小規模事業者が外部環境の変化に柔軟に対応していくための経営の支援者を、今後も継続的に輩出し、支援の場を提供するとともに、時代に合った支援ができるよう自己研鑽の場の提供も積極的におこなっていきたいと考えております。

そして、会員にも多くの企業内診断士がいらっしゃいます。働き方改革への対応の一環として、今後大企業等も兼業が可能となってくる時代がくることが期待されます。当協会としても、企業内診断士の会員の皆様が、千葉県内の中小企業、小規模事業者の経営支援をおこない、社会貢献ができる環境整備を進めていきたいと考えております。人生100年と言われるなか、中小企業診断士の資格を活かしながら、人生の各ステージで輝いていただきたいと切に願っております。

60周年は記念の年ではありますが、次の70周年に向かってのスタートの年でもあります。中小企業診断士が今後100年、200年と活躍し、社会貢献できる礎を確かなものとできるよう、当協会の体制整備を進めていきたいと、心を新たにいたしました。

中小企業支援機関、金融機関各位並びに会員の皆様の引き続きのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



## 60周年記念祝辞

千葉県商工労働部  
部長 吉野 毅

一般社団法人千葉県中小企業診断士協会が創立60周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

貴法人には、昭和34年に中小企業診断協会千葉県支部が創立されて以来、その後、平成24年の一般社団法人化を経て、60年の長きにわたりの確かな経営診断を通じて中小企業の振興に貢献いただいております。ここに、あらためて深く敬意と感謝の意を表します。

さて、千葉県は県内総生産、工業、商業、農業、水産業における多くの指標が全国上位に入る大変バランスのとれた産業県です。また、我が国の玄関口である成田空港を有するほか、交通ネットワークの整備が着実に進展するなど、ビジネスを展開する上で非常に有利な地域でもあります。さらに東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会もいよいよ来年に迫り、企業にとって新たなチャレンジの機会が訪れています。

そこで、県では平成30年2月に策定した「第4次ちば中小企業元気戦略」において、重要な柱として位置付けられている小規模企業振興の理念に則り、女性・シニア・若者等による起業や、次世代に引き継ぐ事業承継支援などを推進しているところです。

これらの支援が成果を上げるためには、日頃から中小企業の経営者及び起業家に寄り添い経営に係る助言等を行っている中小企業診断士の皆様の御協力が何よりも肝要であると考えております。

中小企業の経営者及び県内で起業する方に対し、県としても継続的な支援に努めてまいりますので、貴法人におかれましても、中小企業から信頼される立場として引き続き細やかな支援をお願いしたいと存じます。

結びに、一般社団法人千葉県中小企業診断士協会の今後の御発展と会員の皆様の御健勝と御活躍を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。





## 創立60周年によせて

一般社団法人 千葉県商工会議所連合会  
会長 佐久間 英利

一般社団法人千葉県中小企業診断士協会が創立60周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

貴協会は、昭和34年に社団法人中小企業診断協会千葉県支部として創設されて以来、企業経営に関わる専門家集団として、不断の研鑽を重ね、中小企業に寄り添った支援を継続してこられました。

専門的な知見を活かした的確なコンサルティングは企業経営に有意義であり、多くの経営者が厚い信頼を寄せております。これもひとえに、今井会長をはじめ役員、会員及び職員の皆さまが一丸となってご尽力されてきた賜物であり、その精力的な活動に深く敬意を表します。

現在、わが国の経済は概ね堅調に推移しておりますが、中小企業においては十分にその実感を得るには至っておりません。深刻の度を増す人手不足、経営者の高齢化や円滑な事業承継への対応、消費税率の引き上げなど中小企業を取り巻く課題は山積しております。また、ITが飛躍的な進化を遂げ、経済のデジタル化が進展するなかで既存のビジネスモデルは淘汰の波にさらされております。日本経済は今まさに岐路に立っているといたっても過言ではございません。

このような時こそ、皆さまのような専門家のお力が必要です。引き続き中小企業の良き相談相手として、事業活動をご支援いただけますと幸いです。

結びに、貴協会の益々のご発展と、皆さま方のご健勝を心よりお祈り申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。



## 60周年記念祝辞

千葉県商工会連合会  
会長 和泉 善久

一般社団法人千葉県中小企業診断士協会が60周年を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。

貴協会は昭和34年に社団法人中小企業診断協会千葉県支部の発足後、平成24年に一般社団法人化されて以来、長きにわたって千葉県内の中小企業並びに小規模事業者に対して経営支援を実施され、地域の中小企業並びに小規模事業者を支えてこられました。これもひとえに、歴代会長をはじめ役員並びに会員の皆様のたゆまぬご努力のたまものであると深く敬意を表します。

我が国では中小企業は企業全体の99.7%を占めており、本県においてもほとんどの企業が中小企業に分類されています。中小企業は地域の経済を回し、雇用を守るなど中核的な働きをしているところです。また、商工会地域に多く存在している中小企業の中でもより小規模な事業である小規模事業者は地域の文化やコミュニティを支える貴重な担い手です。私ども商工会は小規模事業者が会員事業者の多くを占めている団体であり、まさに貴協会のご支援を頂戴し、よりよい経営支援を通じて、より地域に貢献する事を目指しております。

また、商工会職員も日々研鑽を積み地域の事業者のために貢献を行っているところでありますが、人口減少の進展やIT技術の発展、経済のグローバル化など経営を取り巻く環境が急激に変化しており、専門的な観点からの経営支援が欠かせなくなっております。貴協会におかれましては、専門家派遣事業や商売繁盛窓口事業など様々な地域の小規模事業者のための事業にご協力いただいております。引き続き中小企業、そして小規模事業者支援の専門家集団として地域の企業活動のさらなる発展にご尽力いただきますことをご期待申し上げます。

結びにあたり、一般社団法人千葉県中小企業診断士協会の今後ますますのご発展と会員の皆様のご健勝、ご隆盛を祈念して私の祝辞といたします。



## 60周年記念祝辞

千葉県中小企業団体中央会  
会長 平 栄三

一般社団法人千葉県中小企業診断士協会が創立60周年という記念すべき節目を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和34年に社団法人中小企業診断協会千葉県支部として発足し、平成24年には一般社団法人化され、今日まで長きにわたり中小企業の経営の診断・助言等を通じて、県内中小企業及び組合等の経営の改善に貢献をされてきました。これもひとえに、歴代支部長及び会長をはじめとした協会の役員並びに会員の皆様の熱意とたゆまぬ努力の賜物であり、その優れた組織運営に対し、改めて深く敬意を表するものであります。

また、平成30年3月末に貴協会の事務所が現在の場所に移転されるまでは、30年以上に亘って本会と同じ事務所で共に業務を行ってきたというご縁から、本会が地域事務局となっている国の「ものづくり補助金事業」の実施において、多くの会員診断士のご協力を頂いていること、さらに、貴協会が実施する企業内診断士を養成するための「プロボノ事業」に本会の職員も参加させて頂いていることに対し、心より感謝を申し上げます。

さて、県内の中小企業を取りまく環境は、人手不足、競争の激化、事業承継など多様で複雑な課題を抱え、これらは早急に取組む必要がございます。

このような状況の中、貴協会では、会員相互の能力の研鑽を図るため、研修会や情報提供事業に加えて、会員交流なども積極的に取組まれています。今後は、約300会員のネットワークをより強固にし、会員が持つ専門的な知識・経験の蓄積を活かしながら中小企業支援を行うことによって、県内経済の活性化に繋がることを御期待申し上げます。

結びに、貴協会がこの記念すべき創立60周年を契機に、より一層の飛躍を遂げられますことを心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。



## 創立60周年を祝して

一般社団法人 中小企業診断協会  
会長 米田 英二

一般社団法人千葉県中小企業診断士協会が創立60周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げますとともに、この機に記念誌を発刊されることは、誠に意義深く、お慶び申し上げます。

貴協会は昭和34年の創立以来、「中小企業の可能性を実現する経営支援の専門家集団」として活発な活動を続けられ、千葉県の中小企業の振興と発展に大きな成果を挙げてこられました。特に近年では経営改善計画の策定において大きな成果を挙げておられると聞いております。また、研究会活動も13研究会が地道な活動を続けておられます。今井会長をはじめ、現在および歴代の役員・会員の皆様のご努力に敬意を表したいと思います。

この5月には、平成から令和への御代替わりを迎えました。昨今は、人工知能などによる第4次産業革命とも言われる激変の中、多様化する中小企業・小規模事業者の課題対応について、事業承継はじめ、ITの利活用や生産性向上、働き方改革などについても、幅広い知識と能力を有する中小企業診断士に対する期待がますます高まっております。この期待に応えてゆくためには、中小企業診断士一人ひとりが一層の自己研鑽を通じて診断実務の品質を高めることが肝要であることは申すまでもありません。約300名の千葉県協会の中小企業診断士の活躍が大いに期待されるところであります。

それでは60周年を契機として、千葉県協会が支援機関や金融機関との連携をますます強めて更なる発展を遂げられること、および会員各位のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、甚だ粗辞ではございますが、60周年のお祝いの言葉とさせていただきます。





## 江波戸副会長インタビュー

### 千葉県協会を取り巻く経営環境を振り返って

## 「どういうところで経営者に夢を与えられるか、そこが大切」

千葉県で長きに亘り、数多くの支援を行ってこられた江波戸勝副会長に、ご自身の診断士活動を振り返りながら、千葉県中小企業診断士協会を取り巻く環境の変化について伺いました。

### 江波戸副会長が中小企業診断士になるまで

#### 一 とても印象に残るお名前ですね。

江波戸という姓は、千葉県の銚子に近い方、今の匝瑳市にもとがあり、そこから出ている姓なんです。市長が江波戸、助役が江波戸という時期もあり、一族がずっと千葉に根付いて、そこで生まれて育ったということです。

#### 一代々、千葉にお住まいになって感じる“千葉人気質”はどんなところでしょうか？

特に千葉県は恵まれている土地なので、あくせく働かなくても食べていけるという感じはありますね。経営者に良いことをアドバイスしても、「そこまではしなくてもいいよ」という感じで欲が無いです。“そこそこ”やればいという気質が千葉県人にあるということですね。

#### 一 江波戸副会長が診断士になった当時は、どのようにすれば診断士の資格が取得できたのですか？

中小企業研修所（後の中小企業大学校）というところがあって、その中小企業診断員養成課程を卒業すると「中小企業診断員」になれる仕組みでした。中小企業診断士の前身ですね。なぜ、資格を取ったかという、中小企業総合指導所に入所したことがきっかけで資格を取りました。

昭和41年に国からの通達に基づいて、全国の都道府県に中小企業の経営指導を担当する中小企業

総合指導所の設置が進められ、千葉県として30名体制の中小企業指導機関を設置することになりました。県においても指導担当者の募集があり、県庁に就職した大学時代の同級生からお話があり、私の希望にぴったりだったものですから応募したというわけです。

昭和44年に、県庁の出先機関である中小企業総合指導所の専門職として採用されました。そこでの仕事は中小企業に対する経営の指導です。

国では、そのような職員を指導担当者として養成するという、中小企業研修所で一年間の中小企業診断員養成研修を実施していました。私の場合は2年半現場の経験を積んだ後に昭和46年10月からの一年間、中小企業研修所へ研修派遣されました。

昭和47年4月から中小企業研修所は中小企業大学校と名称が変更されましたが、私はその養成課程の10期生でした。商業コースと工業コースにそれぞれ60名の研修生がいて、そのうち5割程度が都道府県・市の職員、残り5割が都市銀行を中心とした金融機関やこれから中小企業に対する経営指導をビジネスにしようとする方々でした。

#### 一 講義が多かったのですか？それとも実習が多かったのですか？

半分講義で半分実習です。10月に入ってから最初は財務を学んだのですが、財務の理論を毎日勉



(通産ジャーナル 1989.5月号より)

強して、グループで事例として用意された企業の経営分析をして発表するという感じでした。それが終わると実際に企業に行き、財務を中心にしながら企業全体のことをいろいろヒアリングし、報告書を作成するという理論と実習を交互に学びました。私にとっては、また大学に戻った感じで楽しかったです。

#### 一 一回の実習でどのくらいの期間、企業を支援するのですか？

実習は全部で10回程度行いましたが、ほとんどが一週間程度でした。その中に3回ほど長期の実習があり、3月には一か月間、浜松市内のファッション衣料店2店舗の診断実習を行いました。5月には半月間、兵庫県豊岡市に行き高度化事業として集団化した卸団地に関する実習を行い、8月下旬から9月下旬の一か月間、鳥取県米子市で総合実習として、商店街診断と商店街の構成員である専門店の企業診断を行いました。これらの合宿による長期実習を通じて同じ研修生仲間との絆がかなり深まった記憶があります。今思い出しても最高に楽しかったですね！

### 中小企業総合指導所での活動

#### 一 診断士になられた当時の認知度はどのようなものだったのでしょうか？

中小企業診断士の登録は昭和48年4月1日ですが、行政の施策を推進するという感じで、民間ではあまり知られていなかったと思います。中小企業の「規模の小さいために起こる不利」の是正ということで、中小企業の事業の協同化や協業化を目的に、協同組合などを設立して力を大きいものにして大企業と同じような効率化を図っていこうという施策に取り組んでいました。こういう中小企業に力をあわせてやるようにという形は、民間ではなく、行政でやるしかないんです。

その他に個別企業向けには、設備近代化資金融資制度というのがあって、中小企業の設備をより効率の良い設備に更新するための資金を融資する制度でした。我々が中小企業の現場に出向いていき、間違いのない設備投資をしていただくための



千葉県中小企業総合指導所発行のレポート

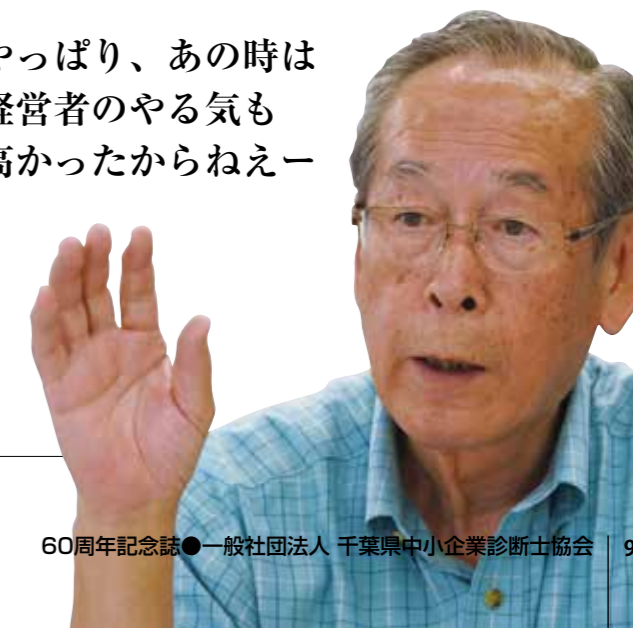
アドバイスをするなどの仕事もありました。入った当初はそういった仕事を結構やらされましたね。また、小売店を訪ねて店内レイアウトや商品陳列のアドバイスなども行っていました。

※「千葉県中小企業総合指導所42年の歩み 千葉県中小企業総合指導所四一会 平成13年3月発行」の昭和48年度の事業実績によると、個別診断として、商店診断50件、工場診断60件、商工相談381件などが記載されている。

個別だけではなくて集団診断というものもあって、例えば、ある都市の商業全体の方向付けをする広域商業診断や駅前再開発の必要性などを判断する材料として商店街診断をするとか、ある特定の業界の将来のあるべき姿を提案する構造改善診断といった診断でした。

このような個別診断や集団診断を行うと国から一件あたりいくらかという補助金が出ますし、中小企業総合指導所の業務担当者の人件費は国が100%補助してくれました。だから、千葉県の中小企業

やっぱり、あの時は  
経営者のやる気も  
高かったからねえー







江波戸 勝

千葉県中小企業診断士協会 副会長  
Eマネジメント研究所 所長

総合指導所としては指導担当者を30名までは増やせるということで、徐々に指導担当者を増やしていきまして、昭和53年度に30名体制が確立しました。あの頃が一番仕事に力の入った時代でしたね。

## 千葉県中小企業診断士協会との出会い

### 一 千葉県中小企業診断士協会との出会いについて教えてください。

当時は「千葉県中小企業診断士協会」ではなく、「中小企業診断協会千葉県支部」ですね。中小企業総合指導所に入った昭和44年には診断協会千葉県支部は存在していましたが、千葉県の場合は、「中小企業診断協会千葉県支部」とは別に「千葉県能率協会」が設立されていたのです。千葉県能率協会の社団法人化は昭和32年に認可されています。この千葉県能率協会というのは中小企業診断士ばかりではなく経営士、税理士、公認会計士、社会保険労務士などの集まりで、千葉県内の中小企業の経営の合理化や経営改善を図っていかうことを目的としていました。

中小企業診断協会千葉県支部は、千葉県経営合理化協会の事務局に机がありました。ところが千葉県経営合理化協会が昭和47年に解散になるということから事務局をどうしようかと関係者で話し合いを重ねた結果、中小企業団体中央会に事務局を引き受けて頂いたということです。

当時の中小企業診断協会千葉県支部には協会員が50～60人位いたと思います。企業の顧問をしている方や会社を立ち上げてコンサルタントをしている方とか、いろいろな立場の方がいましたね。

中小企業総合指導所の仕事をお手伝いして頂いていた先生はおよそ15名程度で、中小企業総合指導所からは何か案件があった場合に、直接診断士の先生へ依頼していたのです。

中小企業総合指導所では、千葉県の中小企業を活性化するために実施すべき事業の年度計画を考えていく中で、国の補助対象にならない事業の事業費は県の財政当局に折衝して、毎年、委託費として予算を確保していました。

その事業が動き出す時に、委託事業として中小企業診断協会千葉県支部を通して先生方をお願いしていました。事業内容としては、主にその時々都市商業が抱えている駐車場問題や地域コミュニティのあり方などの課題をテーマにした「都市商業機能改善手引書」や商店街のリーダーがまちづくりに取り組む際に参考になるテーマを分かりやすく解説した「商店街リーダー読本」などのいわゆるマニュアル本を作成していただきました。マニュアルをまとめるためには全国の成功事例を調査する必要があり、千葉県支部の先生方と一緒に事例調査に伺ったことも良い思い出です。

## 協会への入会と変化

### 一 今までの診断士活動の中で、診断士環境の大きな変化はありましたか？

平成12年に中小企業指導法が改正されて支援法になり、それまで“指導”担当者といった考えから、“支援”するという考え方に変わりました。あの時の変化が大きかった！

国が各県に中小企業支援センターを作らせ、民間の中小企業診断士などの専門家を積極的に活用するという民間活力を導入するということになりました。平成時代になるころから国からの補助金が徐々にカットされ、中小企業総合指導所を廃止したところがたくさん出ました。残ったのは全国で12か所だったと思います。それで、指導事業を全国一律に展開するのが難しくなり、構築し直そうということで、各県に中小企業支援センターが作られました。千葉県の場合、それを引き受けたところが千葉県産業振興センターでした。

補助金は中小企業支援センターに流しますとい

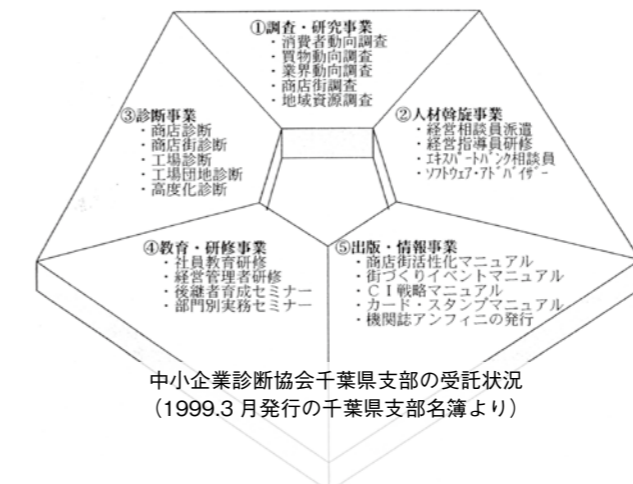
うことで、12年度を最後に千葉県だけでなく全国的に中小企業総合指導所が廃止されました。そこで働いていた職員のうち半分が県の経営支援課、半分が千葉県産業振興センターにそれぞれ行くこととなり、私は平成19年に独立するまでの6年間を千葉県産業振興センターに在籍していました。

### 一 この頃に中小企業診断協会千葉県支部に入られていますね。

平成16年度で定年になりましたが、これまでの仕事を続けていきたいと平成17年4月に協会に入りました。当時は中小企業診断協会千葉県支部に案件が入ってくるということはありませんでしたね。金融円滑化法が平成25年3月に終わって、再生支援協議会ができた頃から、多少、中小企業診断協会千葉県支部の方に仕事に来るようになりました。その後、経営改善支援センターができて、そこから仕事が入ってくるようになったことで、それまで個人の集まりだったのが、組織として対応していくことになりました。

中小企業診断協会千葉県支部の仕事が増えていくなかで、折からの公益法人改革制度に基づいて、一般社団法人千葉県中小企業診断士協会に変わりました。

5年前からは中小企業・小規模事業者経営支援強化促進補助金で信用保証協会が取引先の経営支援を強化することになり、専門家派遣事業が開始されました。また、今まで信用保証協会が行っていなかった創業支援や海外進出への支援なども行うようになったんです。これが、千葉県中小企業



診断士協会が仕事を直接受ける大きなきっかけになったということです。2年前には間借りしていた中央会の事務所内から、独立した事務所を持つことができました。

## 経営環境の変化

### 一 江波戸副会長の診断士活動を振り返って、千葉県の経営環境はどのように変化してきているのでしょうか？

高度成長時代は、経営者の皆さんはいろいろなものに手を伸ばしていました。平成7年に新分野進出について調査したのですが、当時、新分野進出ということに対して経営者は一生懸命でした。以前はみんなで「こういうことやろうよ」ということが結構あったのです。現在はそういう話もあまり聞かないし、一緒にやろうという人もそれほどいない。全体的にマーケットが縮小しているのかもしれないし、経営者が高齢化していることも、非常に大きいですね。

### 一 新分野に出て行こうということが減少していることについて診断士活動の視点から見て、どのように感じられていますか？

残念ながらあまり面白味がなくなったのではないかな。経営革新を支援するという形でやっていたらやりたい人が来るから、やっていた面白と思うんですよ。経営改善計画策定支援で診断士としてのニーズは増えているけれども、もっと前向きに積極的にやっていくことができればと思います。高度経済成長期では経営者は夢を持っていたけれど、今は診断士が経営者に対して企業の良い所、強い所を見つけだしていかないと、経営者自身が将来に対して夢を持つことが出来ないのではないのでしょうか。「どういうところで経営者に夢を与えられるか」が診断士の役割として、大切なのだと思います。







## 商店街の活性化と街づくり

### 一 江波戸副会長と言えば、やはり「商店街の活性化」ですが、一番の成功体験を教えてください。

私の今までやってきた中で、一番大きい成功体験は「東金サンピア」というショッピングセンターに係わるものです。当時は中小企業構造の高度化を推進するという施策の一環として小売商業店舗共同化事業といって、中小企業者が集まってショッピングセンターを作ることを支援していました。その施策に基づいてショッピングセンターを計画したのが東金の商業者の皆さんで、東金ショッピングセンターは日本全国の中でも昭和50年代の成功事例として取り上げられました。

ショッピングセンターを指導していく中で、相手もその気になってやってくれたから良かった。夜中の12時に「先生、今、会議しているんですけど…」って電話がかかってくるんですよ。揉めているので、今から東金まで来てくれと言われて。それで出掛けて行きまくるとまとめたんですが、中小企業者から頼りにされる間柄になっていたことを実感しました。

ここでの成功事例が認められて、中小企業大学校で中小企業診断士養成課程や団体職員研修などの講師を務めさせていただきました。

### 一 東金サンピアの成功事例が、全国へ伝わったきっかけは何ですか？

中小企業事業団の指導部で「高度化指導マニュアル」などの「指導指針」を毎年のように作っていて、全国の中小企業総合指導所に参考書として配付していたのです。そのマニュアルを作るときにベースになるのは成功事例。調査してきた成功事例の共通項をマニュアルとしてまとめるのですが、全国中小企業診断研究会で論文発表をしていた私は、そこに検討委員として参画させていただ

くことになったのです。東金サンピアも成功事例としてマニュアルに載り、事業団の機関誌で紹介されました。

### 一 商店街支援の現状はいかがですか？

世間で言われている高齢化がかなり進んでいるのと空き店舗が増えるなど商店街としての成立要件が崩れてきていて、どちらかというと、一部の商店街を除いては商店街活動について後ろ向きです。



象も登場した千葉銀座商店街のイベント  
(千葉県中小企業総合指導所 1991.3月発行のレポートより)

商店街だけでは今、何もできないですよ。だから、商店街がいろいろな地域の団体、学校、サークルなどと一緒に地域を、街づくりの一環としてやろうとしているのです。そういうところを行政が一生懸命になって何とかしようと支援しているところなんです。

### 一 商店街の活性化や街づくりは、どういうところに難しさがありますか？

商店街への支援は概ね役員さんが相手です。役員さんは基本的にやる気のある人なのですが、その人たちに対してこうやったらどうって言う。「俺たちにはできないよ」って返事が返ってきます。自分一人がやろうとしてもできないのはわかっていますから、自分や商店街の仲間だけでなく、周辺の人達に声をかければいろいろ手伝ってくれるところがあるからとアドバイスしてあげるんです。今は大学、高校、中学などの学生の皆さんと一緒に地域イベントを盛り上げ、地域活動に参画して何かやろうという意識が結構あります。

また、商店街活性化事業についてはアドバイザーとして自分一人では処理できない部分もあり、ベースになる商店街利用者アンケートの聞き取り調査や、報告書作成、報告会など、様々な作業の中で、千葉県中小企業診断士協会会員の皆さんにも協力して頂いています。

## 今の診断士に伝えたいこと

### ～経営者に夢を与えられるかが鍵～

「成功事例を一つでも多く作っていくことが診断士の皆さんの喜びになる！」と思うんです。経営改善計画を作るだけにとどまらず、計画が実行され正常な良い企業になったという事例を一つでも多く作っていく。このような成果がいくつも積み上がっていくことが診断士のみならず千葉県中小企業診断士協会の信用力やブランド力になっていくと思います。

経営者にアドバイスするにしても、相手が実行する気になるようなアドバイスをしていくべきだろうと思います。「これだったらできそうだし」と思えることをアドバイスして、少しでも経営者の方が前向きになって取り組んでいただけることが大切だろうと思いますね。経営に対して夢を感じさせるやり方、目標を実現させる楽しみを見つけられるようになれば本当に良いと思います。診断士自身としても、実現させる楽しみというのを感じられるものを自分自身で見つけていくとやりがいが出てくるはずですよ。夢を作っていく！

### 一 診断士に求められることは？

できるだけ中小企業の現場に足を運び、中小企業が何に困っているのかを身をもって感じてください。そして我々がこの困りごとを解決するための一助になれば…と思います。

毎年発表されている中小企業白書により、中小企業の実態を理解し、課題解決のために講じられようとする新しい中小企業支援策を把握することがスタートだと思います。この支援策を効果あるものにするために我々が果たすべき役割を理解することが大切です。

ひとつひとつの案件を進めていく中に、中小企

業診断士個人として、何かひとつでも課題解決のための新しいテーマを盛り込んでいくことで、仕事を楽しくしていければと思います。その新しいテーマの積み重ねが中小企業診断士としてのキャリアを形成していくことになり、そのテーマを実践していく中小企業者が成果を上げていく姿をみることで中小企業診断士としての喜びが出てくるのではないかと思います。

### 一 これからの診断士に期待することは？

自分の今やっている仕事を通じて楽しみを感じられるようなものを作っていく。これです！経営者と一緒に、お互いの話をしている中で、夢になるようなちょっとした良いことを見つけ出して、それを顕在化させる努力をしていくと良いのではないかと思います。経営者はあまり自分の良いところが分からない。だからいろいろ話をしていく中で、良いところをうまく気づかせてあげる。それにちょっと味付けして、こうやるといいんじゃないですかとアドバイスすると、「そうか！」という再発見がある。自分が接している時にその人の良いところを見つけ出して“夢”を持たせていく。診断士として仕事をして行くうえで、楽しい将来をつくっていきたいですね。

経営者に夢を  
持たせる！  
成功事例を重ねる！







## 特別寄稿

### ～人と出会って45年～ 千葉県中小企業診断士協会の歴史を紐とく

一般社団法人 千葉県中小企業診断士協会

顧問 大塚 慎二

#### ●診断協会本部と千葉県支部の関わり

私は昭和48年に診断士となり、平成4年、49歳で千葉県支部の支部長を拝命しました。平成15年までの11年間、支部長の任につき、その後も本部理事として診断協会の運営に関わってきました。古き良き時代の人との出会いと協会の歴史を紐といてみたいと思います。

その当時、(社)中小企業診断協会(本部)では、各県に支部を置き全国規模の指導機関として、診断士の知名度と資質の向上を目指しておりました。平成4年に元中小企業庁長官の高橋淑郎先生が診断協会の第5代会長になり、中小企業庁とのパイプが強まってきました。会長の軽妙洒脱な人柄が、診断士の知名度向上に大きく貢献しました。私は全国で一番若い支部長として目をかけられ、銀座のお寿司屋でご馳走になることもありました。また、新井信裕第9代会長は、大学の先輩でもあり、診断士の将来構想について熱く語っていただきました。最終的には、各支部が診断協会本部から脱皮し、法人格を有する組織へ移行することに力を注ぎ、それを実現させた弁舌と行動力には、頭の下がる思いが致しました。



高橋会長と筆者

#### ●支部活動と御世話になった指導機関の関係

千葉県支部の会員数は平成4年時点で150人程であり、工業部門、商業部門の診断士で構成され、商業部門の診断士が7割を超えていました。支部の目標の1つ目は診断士の地位の向上、2つ目は支部会員の300人確保、3つ目

は診断士資格の永久化でした。会員増加に結び付く受託事業の確保には苦勞しましたが担当理事の努力もあり、全国有数の実績を上げたため本部で先進事例として発表を依頼されたこともありました。千葉県商工労働部、千葉県中小企業総合指導所、千葉県商工会連合会などから、多くの仕事を受託しました。中でも、千葉県商工労働部よりいただいた「高度化基礎調査事業」は受託金額も高く、私ども診断士と県担当職員が全国の工業団地を視察し、高度化事業の現状を分析、取りまとめるという事業でした。予算不足で現地視察が出来にくいなか、双方にとって有意義な事業でした。

総合指導所では商店街診断(年10箇所程度)及び工業関連診断(年3箇所程度)に加え、多くの個別診断を実施しておりましたので、当支部会員への仕事の依頼もかなりありました。当時は、診断技術は未熟であっても「経験を積ませることで診断士を育てよう」という温かい配慮があったように思います。その他、県下の商工会議所や千葉県商工会連合会からは地域のビジョンづくりや、むらおこし事業など多くの事業に参画する機会をいただきました。こうした事業活動を支える千葉県支部の事務局は、坂本支部長の頃から千葉県中小企業団体中央会に設置しておりましたが、中央会の菊地五月男専務の時代には、ご自身が診断士であったため、当支部の事務局員として中央会職員を担当させるなどの特別な配慮をいただきました。



商工会地域むらおこしサミット

#### ●栄町モデル商店街事業の成功が県下商店街の近代化に波及

千葉市の中心街を形成する5つの商店街の内、栄町通り商店街は、後背地に風俗街をもつことから開発が進まず衰退傾向にありました。起死回生策として昭和56年に千葉県モデル商店街事業の指定を受け、パラペット付きアーケードの設置とカラー舗装に向けて工事を始めました。工事への妨害も有りましたが、栄町の山村理事長のリーダーシップにより、その名も「ハミングロード」という愛称の「明るい歌声の聞こえる街」へと生まれ変わりました。この近代化事業の成功は、「支部診断士が中心となり建築士等と手を結び、ハード事業に取りくむ」という成功事例となりました。“あのうらぶれた栄町に負けてなるものか”と、近代化の気運が加速し、平成元年から4年にかけて千葉銀座、中央銀座、西銀座、富士見商店街等、千葉市中心街区の環境整備事業が完成しました。この流れは県下の商店街各地に波及し、木更津市富士見商店街や銚子銀座商店街の近代化へとその輪を広げていきました。習志野市大久保商店街では、県の「ふれあい商店街近代化事業」の指定を受け、“大久保ゆうろード”として平成5年に完成しました。



栄町環境整備完成一番乗り



「大久保ゆうろード」完成

#### ●はじめての海外視察研修と中国セミナーの開催

平成8年、千葉県支部では初めての海外視察として“韓国の市とまち形成”をテーマに韓国旅行に出発しました。明洞・南大門市場では、日本にない賑わいと喧噪を味わいました。当時完成したばかりの新幹線「セマウル号」に乗り、歴史の都「慶州」を視察、日本との結びつきを深く感じました。

平成14年10月には、世界の工場として躍進ぶりが注目さ

れていた中国の広東省韶関市徐建華市長一行を迎え、中国の投資環境に関する生の声を伝える「中国セミナー」を開催しました。特に交流会では、市長と酒を飲み交わしながら、心を開いて歓談できたことは、何よりの収穫でした。



千葉県支部韓国視察(景福宮門前)

#### ●診断環境変化への対応

平成12年に中小企業指導法から支援法に変わり、総合指導所が廃止されました。これまでの商店街診断や地域ビジョン作りなどの計画策定事業がほとんどなくなり、当協会の受託先も変わらざるを得ない状況になってきました。私の後任の大橋支部長、安藤支部長の時代にその対応策の地固めを行い、安西支部長の時に、(一社)千葉県中小企業診断士協会として本部から独立し、契約による事業活動が可能な法人団体となりました。その後を引き継いだ今井会長の時代になり、念願であった「独立事務所の開設」、「会員診断士300名超え」を実現したのです。受託事業面では、民間に軸足を移すことで素晴らしい実績を上げています。特に、床並道昭会長率いる千葉県信用保証協会や県内金融機関等が実施する経営改善計画作成への診断士の参画等です。何よりも、そうした気運をいち早く読み取り、受入体制を構築していった今井会長と若手理事の実行力には、頭の下がる思いがします。残された課題は「診断士資格の永久化」であり、これを是非実現して欲しいと願うものです。

45年の長きにわたる診断士生活の中で、何とか生き伸びてこられた秘訣は、楽しみながら仕事を行い、現場感覚を重視し、人と人との縁を大切にすることでした。クライアントから「特に用も無いけれど、あいつと飲みたい」と言われれば、仕事もお金も自然と入ってきました。そして、シンギュラリティ時代を迎える診断士にとって、大切なことは「現場感覚で対策を立て、義理と人情と愛嬌で信頼を勝ち得る」ことではないでしょうか。

おわりに、行政及び関係機関の皆様へ深く感謝すると共に、御世話になった会員の皆様へ御礼を申し上げます。





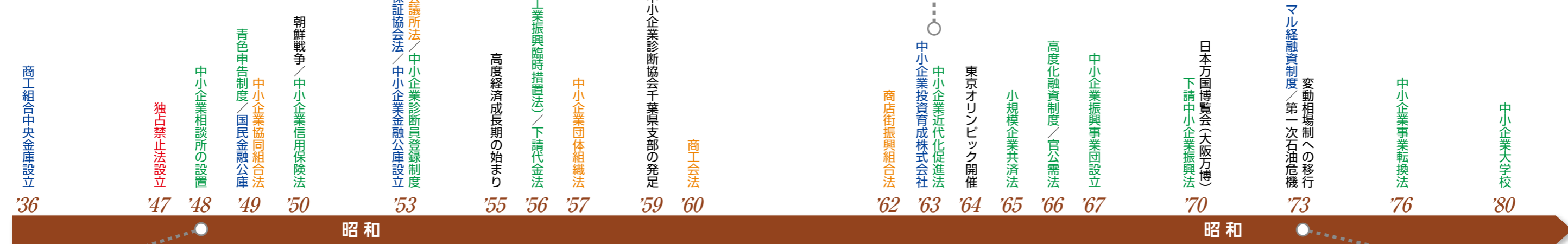
# 年表で見る中小企業施策の変遷

中小企業に対する政府の施策は、どのように変遷してきたのであろうか。歴史的背景や出来事とともに振り返る。

年表中の文字色は 赤：基本法規 / 青：金融政策 / 緑：振興政策 / 橙：組織化政策を表しています



1988年に開業の千葉モノレールは懸垂式モノレールとしては世界最長でありギネス世界記録にも認定されている。



経済力の集中を防止  
健全な中小企業の育成

二重構造論  
中小企業と大企業との格差是正

## 1948年 中小企業庁の設置

### ■背景

鉄鋼、電力などの重点分野に対して生産資源を集中させた結果、中小企業が主な生産主体となる織物などの産業に対して生産資源が配分されないという「中小企業問題」が発生。

### この時期の施策

#### ①金融政策

・戦前の商工組合信用金庫に加え、1949年に国民金融公庫、1953年に中小企業金融公庫が設立。信用補完のため、1950年に中小企業信用保険法、1953年に信用保証協会法が制定され、各都道府県の信用保証協会の体制が整備された。

#### ②組織化

・1949年に4人以上の事業者が任意に加入し、共同事業を行う組合を定める中小企業事業協同組合法を制定

#### ③診断指導

・中小企業庁設立時に指導部を設置し、企業診断制度を創設  
・1960年の商工会等の組織に関する法律(商工会法)の制定により、診断・指導体制が強化

### この時期の施策

#### ①生産性の向上

・1963年に制定された中小企業近代化促進法により、中小企業の設備の近代化・高度化を図ることが基軸の政策に。

#### ②取引条件の向上

・1956年に制定の下請代金支払遅延等防止法によって下請構造の定着化に伴う取引条件の不利を補正。  
・1970年に制定の下請中小企業振興法によって中小企業への支援策を実施。

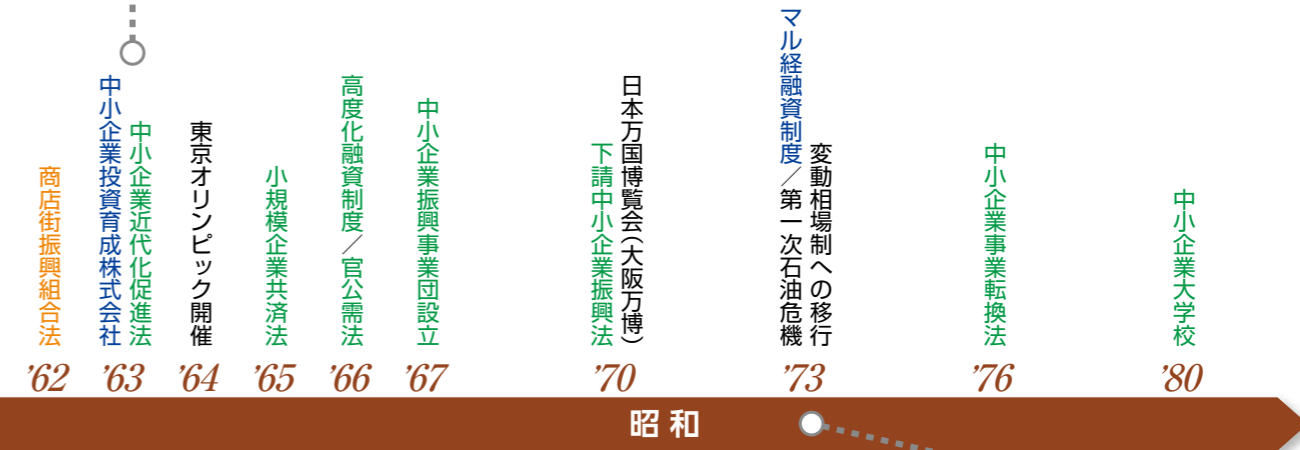
#### ③小規模企業者への対応

・小規模企業者に対し、中小企業に対する施策が円滑に実施されるように、金融、税制その他の事項につき、必要な考慮を払う旨を中小企業基本法において一章を設けて規定。

### ■背景

大企業と中小企業の発展速度に差が生じ、生産性・賃金・技術・資金調達面等の諸格差が顕在化。激化する国際競争への対応を迫られるなか、中小企業の生産性の向上が求められるように。また、自動車産業などを中心に大企業を頂点とする系列に組み込まれ、下請構造の定着化も課題に。

## 1963年 中小企業基本法の制定



八幡製鐵(株)(現新日鉄住金(株))は1964年に君津製鉄所を創業させた。

## 1973年 中小企業基本法の改正

### ■背景

高度成長に伴い、特に製造業の企業の資本装備率の向上によって中小企業者の範囲を画する資本金規模と従業員規模との関係に変化。また、商業においても卸売業と小売業との業態面の相違に対し、これらを一括して定義することに対して疑問が強く出された。

### この時期の施策

■中小企業者に係る製造業の資本金基準を改正(5,000万円→1億円)するとともに、商業を卸売業と小売・サービス業として分けて定義(小規模企業者については変更なし)。

■小規模事業者経営改善資金融資制度(マル経融資)を創設するとともに、小規模企業への支援を充実するため、中小企業庁に小規模企業部を設立(1974年)。

■石油危機後の不況下、中小企業の事業転換の重要性が認識され、1976年中小企業事業転換対策臨時措置法を制定。さらに、プラザ合意後の急激な円高とこれに伴う不況への対応として1986年に同法を改正し、中小企業の事業転換支援を強化。









# 千葉県のできごと・千葉県協会支部長の変遷

周年	年代	千葉県の状況	代	就任	期間	支部長・会長
0	1959 (昭和34年)	<b>社団法人中小企業診断協会千葉県支部設立</b>	1	1959	S34.2 - S42	秋葉 中
1	1960 (昭和35年)	京葉有料道路完成				
2	1961 (昭和36年)	京葉臨海工業地帯造成計画作成				
3	1962 (昭和37年)					
4	1963 (昭和38年)					
5	1964 (昭和39年)					
6	1965 (昭和40年)	千葉港, 特定重要港湾に指定				
7	1966 (昭和41年)					
8	1967 (昭和42年)	高等学校野球夏季大会で習志野高校優勝	2	1967	S42 - S44	斎藤 誠一
9	1968 (昭和43年)	市原市に県公害研究所開設	3	1969	S44 - S46	相馬 武人
10	1969 (昭和44年)	地下鉄東西線, 西船橋まで開通				
11	1970 (昭和45年)					
12	1971 (昭和46年)	千葉テレビ放送開設	4	1971	S46 - S47.5	萩原 浩
13	1972 (昭和47年)	外房線全線電化。国鉄総武線複々線化	5	1972	S47.5 - S49.5	田中 秀雄
14	1973 (昭和48年)	第28回国民体育大会(若潮国体)開催				
15	1974 (昭和49年)	高等学校野球夏季大会で銚子商業高校優勝	6	1974	S49.5 - S51	杉浦 昇
16	1975 (昭和50年)	地元住民, 川崎製鉄相手に公害訴訟				
17	1976 (昭和51年)		7	1976	S51 - S55.5	浅井 新一
18	1977 (昭和52年)	新東京国際空港鉄塔の撤去作業で, 警官1人死亡				
19	1978 (昭和53年)	成田空港開港				
20	1979 (昭和54年)	入工海浜「幕張の浜」オープン				
21	1980 (昭和55年)	千葉港貨物取扱量1億5200万トンで日本第1位	8	1980	S55.5 - S59.5	福島 豊
22	1981 (昭和56年)	県第2次新総合5カ年計画策定				
23	1982 (昭和57年)					
24	1983 (昭和58年)	東京ディズニーランド, 浦安市にオープン				
25	1984 (昭和59年)	県民の日(6月15日)制定	9	1984	S59.5 - S60.5	棟田 耕治
26	1985 (昭和60年)	千葉外房有料道路全線開通	10	1985	S60.5 - S61.5	福島 豊
27	1986 (昭和61年)		11	1986	S61 - H元	坂本 康男
28	1987 (昭和62年)	千葉県東方沖地震発生				
29	1988 (昭和63年)	千葉都市モノレール, 営業開始				



周年	年代	千葉県の状況	代	就任	期間	支部長・会長
30	1989 (昭和64年/平成元年)	幕張メッセオープン・東京湾横断道路建設着工	12	1989	H元 - H4.5	川井 洋
31	1990 (平成2年)	千葉マリンスタジアム, 幕張テクノガーデンがオープン				
32	1991 (平成3年)					
33	1992 (平成4年)	千葉市が政令指定都市に移行	13	1992	H4.5 - H15.5	大塚 慎二
34	1993 (平成5年)	千葉県生誕120周年記念事業実施				
35	1994 (平成6年)	かずさDNA研究所が開所				
36	1995 (平成7年)	県環境基本条例, 環境保全条例を制定				
37	1996 (平成8年)	現県庁舎(本庁舎)完成				
38	1997 (平成9年)	東京湾アクアライン開通				
39	1998 (平成10年)					
40	1999 (平成11年)					
41	2000 (平成12年)		14	2003	H15.5 - H19	大橋 唯男
42	2001 (平成13年)					
43	2002 (平成14年)	県人口600万人突破				
44	2003 (平成15年)	「平成の大合併」県内第1号として新・野田市誕生				
45	2004 (平成16年)		15	2007	H19 - H24	安藤 孝
46	2005 (平成17年)	「つくばエクスプレス」が開業				
47	2006 (平成18年)	全国で初めて「障害者条例」制定				
48	2007 (平成19年)	館山道全線開通	16	2012	H24 - H26.5	安西 芳郎
49	2008 (平成20年)					
50	2009 (平成21年)	森田健作氏県知事当選				
51	2010 (平成22年)	ゆめ半島千葉国体・ゆめ半島千葉大会開催				
52	2011 (平成23年)	東日本大震災で本県にも大きな被害	17	2014	H26.5 - 現在	今井 和夫
53	2012 (平成24年)	<b>一般社団法人千葉県中小企業診断士協会設立</b>				
54	2013 (平成25年)	圏央道の東金JCT~木更津東IC間が開通				
55	2014 (平成26年)		17	2014	H26.5 - 現在	今井 和夫
56	2015 (平成27年)	成田空港の第3旅客ターミナルビル供用開始				
57	2016 (平成28年)	ちばアクアラインマラソン2016開催				
58	2017 (平成29年)	東京湾アクアライン開通20周年				
59	2018 (平成30年)					
60	2019 (平成31年/令和元年)	<b>千葉県中小診断士協会設立60周年</b>				



出典：千葉県ホームページ (https://www.pref.chiba.lg.jp/kouhou/profile/sugata.html) および  
 千葉県の歴史 (石井・宇野著 2012年 山川出版社) より編集  
 画像提供：(公社)千葉県観光物産協会





## 各部の取り組み

### 総務部

総務部長 高橋 博男



協会組織を運営する上で必要となる、組織全体に関する事務を担っています。主要業務として、理事会や定時社員総会の議事録作成、定時社員総会の運営、ホームページの更新・運営、契約書の条項作成などが挙げられます。

当協会の会員数は300名を超え、様々な要望に加え、ときには解決すべき問題も多々発生します。当協会の会員が中小企業診断士という資格を最大限に活用いただくために、総務部が果たす役割は決して小さくありません。

### 会計部

会計部長 伊藤 正彦



会員の皆さまからお預かりした会費について、会計処理を行い、決算報告を行うとともに、予算の管理業務を担っています。当協会が60周年を迎える令和元年は、消費税が10%に増税される時期と重なりました。税制度の変更にとまない、適切な会計処理をおこなうことも会計部の重要な役割です。

近年では、当協会の営業活動から得られる事業収益も増加傾向にあります。当協会が持続的な成長を果たすために、会計部では財政状態や経営成績を集計、報告する業務を担っています。

### 研修部

研修部長 茂木 俊裕



会員の皆さまが、中小企業診断士として更なるスキルアップを図るために、様々な活動を行っているのが研修部です。理論政策更新研修や協会研修、研修旅行、その他の研修会を企画・運営しています。当協会独自の取り組みである「新入会員研修会」も行っています。2018年からはポリテクセンターの「生産性向上支援訓練」の制度を活用したセミナーの運営を開始しました。

研修部では会員とともに企画・運営を行うため、「研修部委員制度」を2016年より設けています。

中小企業診断士は、継続的に学習し、知識を習得することが重要といえます。研修部では、会員の皆さまのスキルアップを最大限にサポートしていきます。

### 会員支援部

会員支援部長 斎藤 宏樹



会員支援部では、会員の皆さま同士の交流を促進することを目的に、春と秋に診断士祭りを開催したり、当協会の広報・宣伝活動をおこなったりしています。新規会員の加入を促進する取り組みや、実務従事事業に加え、会員の皆さまがセミナー講師として活躍の場を広げるために、セミナー講師養成講座も開始しました。

中小企業診断士として活動するためには、中小企業診断士同士のネットワークが欠かせません。会員支援部では、会員の皆さまが楽しく有意義な診断士ライフを過ごすよう様々な取り組みを今後も行っていきます。

### 地域振興部

地域振興部長 川村 浩司



当協会において営業の役割を果たしている二つの部門の一つが地域振興部です。地域振興部の営業担当は、主に公的な支援機関です。商工会・商工会議所を中心に、受託事業の開拓、推薦、紹介を行っています。

中小企業の課題が多様化する中、地域の支援機関の役割は重要性を増しています。地域振興部では地域の支援機関と強力なパートナーシップ関係を構築してきました。こうした関係性を最大限に活用し、中小企業の成長を実現するために会員の皆さまが専門性を発揮し、活躍する機会を創出しています。

### 経営支援部

経営支援部長 石井 孝昌



経営支援部では、地域振興部とともに、当協会の営業部門を担っています。経営支援部の営業担当は主に金融機関で、様々な分野で連携強化を図ってきました。

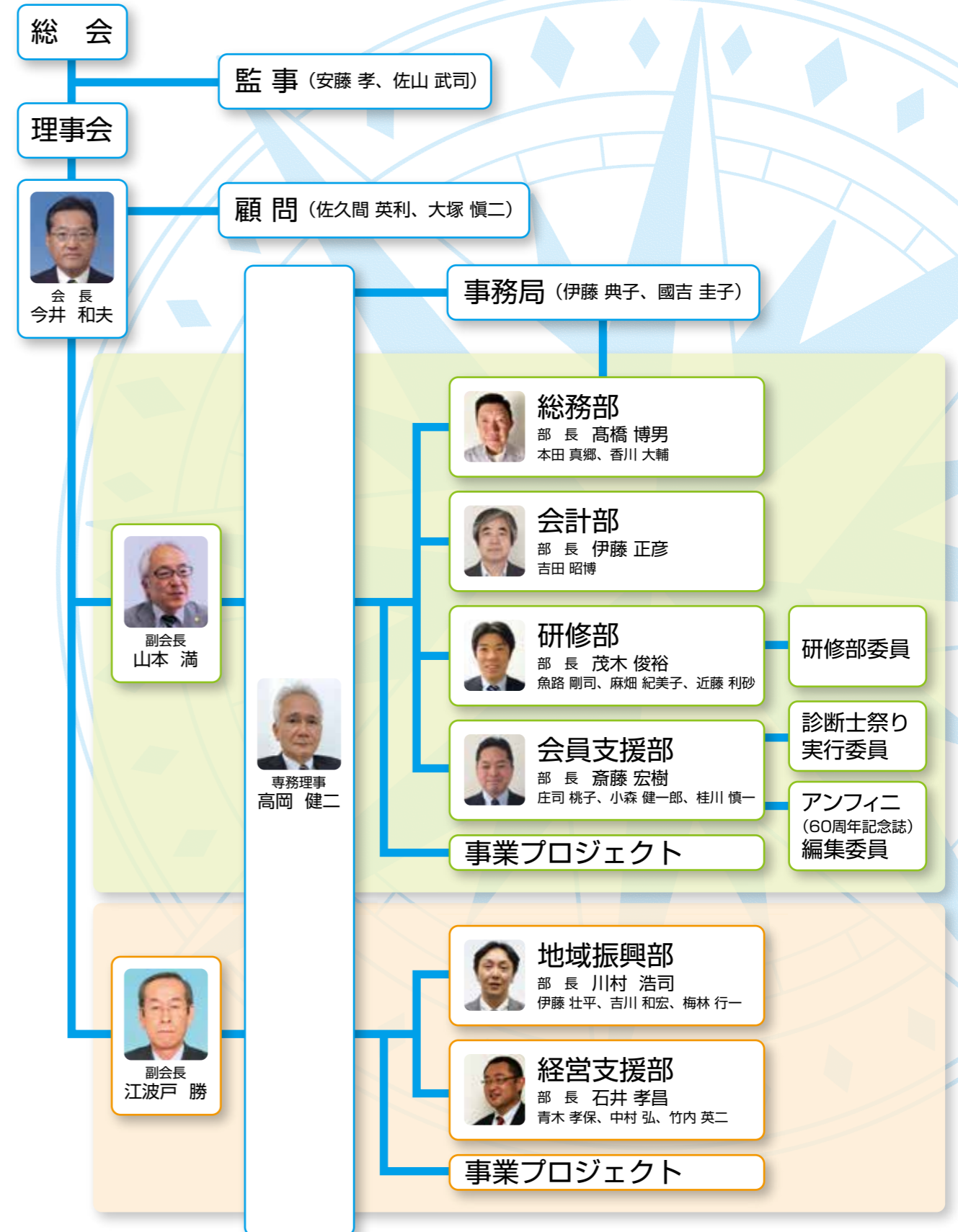
当協会では、専門人材の開拓・育成から、品質チェックまでを含めた組織力を強化し、金融機関の要求に応えてきました。経営支援部は、会員の皆さまの個性と組織力の両方の力で、中小企業の課題を解決できる案件の創出に力を尽くしています。

千葉県協会の取り組みなどは、今後も協会のHPにアップしていきます。お楽しみに！

<https://www.chiba-smeca.com/>



## 千葉県中小企業診断士協会 組織図







## 業務分掌 (令和元年度)

### 総務部

総務部長 高橋 博男



- 総会、理事会の準備・運営
- 事務局の管理・運営
- 各種規程の整備
- 各種文書の管理
- 押印の運用管理
- ホームページの管理
- 個人情報の保護
- 診断士バッジの管理
- 備品・消耗品の管理
- 資格更新支援
- 大規模災害対策支援
- 役員賠償責任保険の管理

### 会計部

会計部長 伊藤 正彦



- 予算・決算
- 会計処理

### 研修部

研修部長 茂木 俊裕



- 理論政策更新研修の計画・実施
- 会員スキルアップのための各種研修会の計画・実施
- 新入会員研修会の計画・実施
- 新入会員研究チームの管理・支援
- 新春懇親会(新入会員研究の発表)の計画・実施
- 研修旅行の計画・実施

### 会員支援部

会員支援部長 斎藤 宏樹



- 会員交流の促進(春・秋祭り)
- 新規会員の加入促進
- 会員の福利厚生
- 実務補習事業
- 実務従事事業・ポイント取得支援
- プロボノ事業
- 協会所属の研究会の設立推進と管理
- 研究成果の発表
- 協会の広報・宣伝事業の推進
- 機関誌の編集・発行

- メールリストの管理・運営
- メディアとの連絡・調整

### 地域振興部

地域振興部長 川村 浩司



- 行政・支援機関との連携強化
  - 「診断士の日」イベントの計画・実施
  - 商工会および商工会議所が策定する「経営発達支援計画」への支援
  - 受託事業の開拓、推薦、紹介
  - 収益事業(研究会実施の事業を含む)の管理
- 《事業テーマ》  
BCP、街づくり、観光振興、国際化、知的資産経営、6次産業化等

### 経営支援部

経営支援部長 石井 孝昌



- 金融機関との連携強化
  - 「診断士の日」イベントの計画・実施
  - 千葉県ビジネス応援センター(地域プラットフォーム)の運営管理(ミラサポの活用)
  - 経営革新等認定支援機関としての運営管理
  - 受託事業の開拓、推薦、紹介
  - 収益事業(研究会実施の事業を含む)の管理
  - 産廃業者、外国人経営者等の経営改善計画策定支援
- 《事業テーマ》  
IoT、経営(改善)計画策定支援、事業承継、創業、ものづくり等

### 事業プロジェクト

- Aプロジェクト:千葉県中小企業再生支援協議会
- Bプロジェクト:経営改善支援センター
- Cプロジェクト:自治体、支援機関等が実施する調査事業の受託
- Dプロジェクト:事業承継
- Eプロジェクト:企業支援のための会員制度
- Fプロジェクト:中小企業診断士一次試験対策講座(企業内診断士の活用)
- Gプロジェクト:HP制作(企業内診断士の活用)
- Hプロジェクト:IoT導入支援
- 「診断士の日」推進プロジェクト

## 各部のミッション (令和元年度)

### 総務部

総務部長 高橋 博男



- 事務局の運営体制強化
- 専務理事の職務執行支援
- ホームページの運営

### 会計部

会計部長 伊藤 正彦



- 正確でスムーズな会計処理

### 研修部

研修部長 茂木 俊裕



- 理論政策更新研修のスムーズな運営
- 各研修会での参加者の満足度向上
- 新入会員研究チームの運営支援
- 研修旅行の実施
- 生産性向上支援訓練事業の実施
- 「診断士の日」イベントの実施(「診断士の日」推進プロジェクトとの連携)



新入会員研修にて。今井会長挨拶

### 会員支援部

会員支援部長 斎藤 宏樹



- 新規会員の加入促進(目標会員数:400人)
- 中小企業診断士養成課程の開設機関へのアプローチ(千葉商科大学、東洋大学、日本生産性本部等)
- 実務補習の実施支援
- 実務従事事業の実施支援
- 企業内診断士向けのポイント取得支援
- 新入会員向けイベントの魅力向上
- アンフィニの魅力向上
- 研究会の設立推進(目標1研究会)
- 中小企業診断士一次試験対策講座プロジェクトの立ち上げ

- HP制作プロジェクトの立ち上げ
- プロボノ事業の実施



春祭りでポリテクセミナーをPR

### 地域振興部

地域振興部長 川村 浩司



- 千葉県、市町村、商工会(連合会を含む)、商工会議所、中央会、産業振興センター、千葉市財団等の支援機関との連携強化。特に各種講習会・セミナーの受託強化(担当制の徹底)
- 商工会および商工会議所が策定する「経営発達支援計画」への支援
- 「診断士の日」イベントの実施(「診断士の日」推進プロジェクトとの連携)

### 経営支援部

経営支援部長 石井 孝昌



- 経営革新等認定支援機関としての千葉県内での地位向上(Bプロジェクト、補助金申請支援等)
- Bプロジェクト案件の分析と取り纏め
- 地域プラットフォームとしての有効な活動
- 千葉県内金融機関との連携強化(担当制の徹底)
- 産廃業者、外国人経営者等の経営改善計画策定支援の推進
- 企業支援のための会員制度プロジェクトの立ち上げ
- IoT導入支援プロジェクトの立ち上げ
- 「診断士の日」イベントの実施(「診断士の日」推進プロジェクトとの連携)



60周年記念式典・記念講演





## 研究会紹介

### 街づくり研究会

「街づくり研究会」の歴史は古く2006年に創設されました。研究対象は少なくとも「町」という行政区画ではなく、商店街に代表される“街”であったり、もっと広がりを持ち人々が集まり賑わいを感じさせる地域“まち”であったりします。街づくりに関心と愛着を持つ会員の相互研鑽により知見を深め、更に更新ポイントの取得が可能な商店街診断を通じて実践的なスキルアップを目指します。

何よりも日本や世界各地の先進事例を学ぶことで、五感を活かしたワクワクする街に変身させてみませんか？私達は街を愛し、元気な街づくりを提案します。



マチ研メンバーによる商店街診断報告会



会員による事例発表

### スキルアップ研究会

若手診断士が、相互研鑽によるコンサルティング業務の知識とノウハウの習得に努める研究会として2011年に発足しました。研究会は年間5回のペースで開催され、テーマに制限はなく、メンバーの誰かが講師を務める勉強会を中心に研究会が実施されています。誰かの専門分野を学び、自分の専門分野を披露する場です。経営者を招いた講義も行っています。



「リトル肉と日本酒」視察。  
飲み過ぎでどうやって帰ったか覚えてません。

診断士活動を開始するのは、誰でも多少の勇気があるものです。スキルアップ研究会の活動を通じて、若手診断士が最初の一步を踏み出すきっかけになればいいなと思っています。



懇親会イメージの強いスキ研ですが、勉強会もまじめにやっています。

### 飲食店研究会

飲食業界に興味関心を持つ診断士が、相互研鑽により同業界に対する知見を深め、コンサルティングノウハウの習得に努め、研究活動を通じて得たノウハウを活用してコンサルティングを実行する研究会として、2019年に発足しました。

具体的な活動内容としては、座学による勉強会はもちろんのこと、飲食業のコンサルティングを実施するなど、アウトプットを通じて実力を身に付けたいと考えています。もちろん、飲食店視察（懇親会）は我々が最も重視しているところです！



研究会会長河野先生の講義



最も重視している懇親会の様子

### 創業支援研究会

創業支援研究会は、創業支援に関する知識の習得及び支援の実践を通じて、創業支援の実務に関するノウハウを獲得すること、また千葉県内における開業率の向上に寄与することを目的として、2015年に設立されました。国や自治体の後押しにより創業支援のニーズは年々拡大傾向にあり



## 研究会紹介

ます。当研究会においても、数多くの創業者に対し、創業スクール・創業塾等を通じた支援を実践して参りました。創業者がよりよい経営者となるよう、創業スクール等を通じて積極的に働きかけるよう活動したいと考えています。



研究会での模擬講義



創業スクールの検討会

### 知的資産経営研究会

当研究会は、協会が毎年実施している「新入会員研修会」の中の1つ「ローカルベンチマーク研究会」が発展して、2017年11月に発足しました。

「ローカルベンチマーク」「事業性評価」「知的資産経営報告書」を通じて、経営者・金融機関・支援機関との対話の活用を目指し、会員相互の実践的なスキルを身につけていくことを目的としています。現在は会員数も50名近くまで



勉強会はいつも真剣です



懇親会に全員集合！

増え、数名単位でプロジェクトを組み、実際に企業に伺って知的資産経営支援を行っています。スキル・経験はまだまだこれからですが、若手中心の勢いのある研究会です。

### 特産品観光研究会

特産品観光研究会は、千葉県の特産品や観光の実態をつかみ、今後増えていくインバウンド需要に県内中小企業がどこまで対応できるか把握するために発足しました。

千葉県は広く、地域によって特性が大きく変わります。千葉県を知らずして、県内中小企業の支援はできないという考えのもと、まずは県内の観光地や特産品の生産所などを訪問して、社長にヒアリングすることで千葉県の魅力を知ってもらいます。そのうえで、イベントの調査事業や特産品を生産する会社へのコンサルティングを手掛けています。



「房総のむら」でコスプレ体験



東灘酒造で酒蔵見学。飲み過ぎました。

### 農業研究会

2004年から活動を始めた地域特産品振興開発研究会（現特産品・観光研究会）のメンバーから、農業中心に研究しようという有志で2010年に農業研究会を設立しました。2010年5月21日に山武市の自然農法生産農家を初めて取材し、現在に至っています。

農商工連携や新規就労支援および農家の抱える課題に対して適切なアドバイスや支援ができるノウハウ、スキルの向上が目的です。原則千葉県で活動する農業事業者および施設を訪問し、農業事業者から直接取材することを基本に活動しています。





## 研究会紹介



7代180年続く農家で農家体験の視察



都市型農産物直売所の視察

### ハ ラダイムシフト研究会

パラダイムシフト研究会は経営診断に特化した研究会です。「研究会を作り、主に企業内診断士の協会会員の更新を支援したい」との幹事の鈴木先生からのお話が起点で、5日間で研究会申請書作成、発起人参加者を募り、会を発足させました。今年度で活動5年目になります。初年度から、毎年2案件の経営診断を実務従事として実施し、診断を通して実務スキルの習得に努めてきました。分野も水産・農業・製造・小売・卸、女性経営者等、幅広く取り上げました。

今後も、新たに更新実務対象になった社福、医療法人、NPO等も含めて経営診断を実施し、協会会員の更新をサポートしていきます。



最終報告会



終わってひと安心

### リレバン(経営支援)研究会

「リレバン研究会」は千葉県協会内の名称であり、対外的には、誤解を招きやすいため「経営支援研究会」の名称を用いています。

当研究会は創立以来15年余になりますが、当初から金融機関を対象としてきたわけではありません。当時の考えを同じくする会員が、互いに研究会を重複して所属しながら夫々に手分けして活動の場を拡げていった、その一つが偶々金融機関であったわけです。当時われわれが共通して抱いていたテーマは「診断理論を用いて企業を成功に導くために何が障害になり、その障害をどう克服していったらよいか?」ということでした。行き着くところが「個々人の診断実務能力の向上」であり、その手段として「実戦の場」が求められたのであります。当研究会は、以下のように、過去その時代々々における中小企業経営のニーズ(課題)を探索して積極的に応じ、会員が互いにノウハウを共有しながら個別企業の経営支援における開拓者としての活動をしてきました。

#### [沿革]

- ・企業財務研究会  
(事業再生案件：千葉県再生支援協議会対応)
- ・経営支援研究会  
(経営革新案件：千葉県商工労働部対応)
- <統合>
- ↓
- ・リレバン研究会  
(中小企業金融公庫千葉支店、房総信用組合等対応)
- ↓
- <独立>
- ・事業承継研究会  
(房信、館山信金等対応)

### 国際ビジネス研究会

当研究会は、2011年9月に船橋市勤労市民センターにおいて勉強会を開催し、千葉県内で国際ビジネスに携わっている企業を対象とした調査報告をもとにこれら企業の動向・ニーズについて、石塚康生先生が発表したのが最初です。以後同センターを拠点として、年6回勉強会を開催し、国際ビジネスを目指す地域中小企業に対して適切な助言が行えるように、国際ビジネスに関する研究発表・情報交換等を通じて、会員の能力を向上させること、及び本研究会の活動を通じて、千葉県協会の発展に寄与することを目的に活動しています。



## 研究会紹介

### 製造業研究会

製造業研究会は、2015年度の新入会員の研修会で研究発表したメンバーを中心に6名で2016年4月に発足した研究会で、この3年余りで50名を超える会になりました。発足以来、隔月に船橋市内の公民館において各メンバーからの製造業に関する発表や、外部講師の講演などを行う定例会を実施しております。定例会の後は船橋駅周辺の居酒屋で懇親会を行いメンバー間の親睦を深めています。定例会の他に、セミナーの講師、無料診断の実施などの活動をメンバーで実施しており、少しずつ研究会の成果を生かした活動も並行して行っております。

### 事業承継研究会

当研究会は、経営支援研究会の分科会として活動を始め、2010年5月に事業承継研究会として発足しました。研究会の目標を「マーケットでの実践」として掲げていたため、千葉県内の金融機関や支援機関での無料セミナーや無料個別相談会を定期的に開催することで、会員相互のスキルアップを磨くことが出来ました。

2017年6月に前代表の上田浩靖先生から代表のバトンを引き受けました。会員数も登録ベースで75名となり、運営方法もより、実践的に活躍できる会員を創出していきたいという目標を新たに掲げ、事業承継関連のセミナー講師や国、県など各行政で活躍できる会員など対外的にも高い評価をいただけるようになりました。今後、益々、事業承継の前さばきが出来る専門家が必要ですので、当研究会が事業承継の専門家の登竜門として社会貢献していく所存であります。



研究会風景 (真剣です!)

研究会終了後の懇親会総勢22名  
(天使の隠れ家にて)

### IT活用経営戦略研究会

当研究会は、ITの黎明期に産声を上げ、すでに20年以上にも及ぶ年月を重ねてきました。研究会を立ち上げた当初から、来るデジタル化社会において、ITを経営にどのように役立てることができるのか、研究を重ねてきました。

近年では、中小企業でも生産性が求められ、そのための手段としてITに高い注目が集まっています。ITの活用度合いが企業の競争力をも左右する要因になってきました。私たちは、変化の早いITテクノロジーに追随し中小企業の経営に役立てるため、今後も研鑽を続けてまいります。



HPプロジェクトの様子





## 研修部委員活動紹介 ～研修の企画・運営に主体的に関わっています～

「研修部委員制度」は、会員の増加や多様性を受け、研修の品質向上や増強、会員への情報開示、次世代の育成等を目的として、平成28年度に創設されました。それまでは、研修部担当理事のみで研修の企画・運営を行っていましたが、現在は、登録された研修部委員が研修部担当理事とともに研修の企画・運営を行なっています。

研修部委員は登録制で、委員制度の趣旨に賛同し、主体的に関わっていただける会員に登録していただいております。任期は2年となっています。研修部委員の登録については、独立診断士・企業内診断士を問わず、すべての会員を対象として、毎年募集しています。第1期（平成28年度）は10名、第2期（平成29年度）は14名、第3期（平

成30年度）は6名の会員が研修部委員として登録されました。本年は1期生が卒業し、2期生と3期生および理事4名を合わせた19名で活動しています。

研修部が主催し、研修部委員が活動する主な研修としては、総会研修、新入会員研修会、理論政策更新研修（年3回）、研修旅行、新春懇親会などがあります。平成29年度には、南関東ブロックのスキルアップ研修を企画・運営し、他県の会員を含め25名が参加しました。また、平成30年度から、ポリテクセンター千葉の補助事業である「生産性向上支援訓練制度」を活用し、千葉県協会会員限定のセミナーを開催しています。

### 研修部委員一覧

（順不同、敬称略）

芹田 弦	大石 泰弘	石村 飛鷹
伊藤 大	高見 康一	茂木 俊裕（理事）
長田 義弘	蛭川 洋介	魚路 剛司（理事）
小野澤 隆	長門 理恵	麻畑紀美子（理事）
守 香菜子	石井 暢彦	近藤 利砂（理事）
石井 伸暁	森 一真	
田久保泰夫	松崎 奈央	



夏の慰労会にて



忘年会にて。相当お酒が入ってます



理論政策更新研修にて



## 診断士祭り実行委員活動紹介 ～頼られる裏方を目指して頑張っています～

診断士祭りは、会員同士の交流を深めることを目的とした千葉県協会独自のイベントで、春と秋の年2回開催しています。また、千葉県協会の会員のみならず、他県協会会員、実務補習中の方や養成課程の方などにも参加してもらうことで、千葉県協会の魅力を知ってもらいながら幅広く交流ができるイベントになっています。

さて、この診断士祭りは、会員支援部の理事の方々を中心とした、「診断士祭り実行委員会」によって企画・運営されています。実行委員会は、診断士祭り開催の数ヶ月前になると有志が集められ、理事の方々を含めて概ね8～10名で構成されます。

実行委員会が発足するとまずはキックオフミーティングを行います。その中で祭りの方向

性とコンテンツについて意見を交わし、内容とタイムスケジュールを固め、さらにそれぞれの役割分担を決めます。役割には、募集ページやチラシの作成、当日の受付、司会、懇親会担当などがあり、実行委員同士で協力しながら責任を持ってこなしていきます。最初のミーティング以降はメールでのやりとりで進めていきます。

このように完全に裏方の活動ですが、この活動では様々なメリットがあると感じます。まずは、イベントの進め方が一連の流れで体感できるので、他のイベントを主催するときに戸惑うことがなくなりました。次に、理事の方々に近い距離での活動なので、深い話ができることも魅力だと思います（私は理事の方に人生の“コンサルティング”をしてもらいました!）。そして、やはり一番の魅力は、無事に診断士祭りを完遂できたことによる達成感を味わえることです。

皆様もぜひ私と一緒に、「診断士祭り実行委員」やってみませんか!?

### 診断士祭り実行委員一覧

（順不同、敬称略）

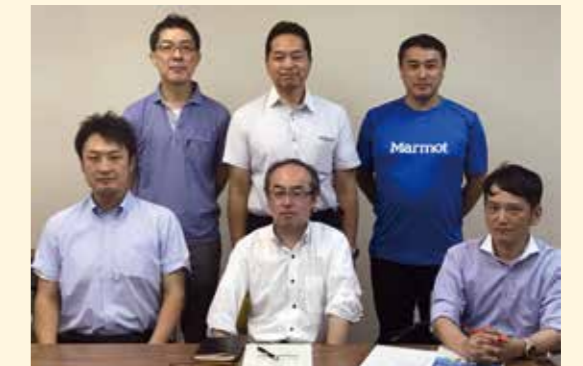
田久保泰夫	石井 暢彦	小森健一郎（理事）
武井 宏哉	齊藤 宏樹（理事）	桂川 慎一（理事）
長田 義弘	庄司 桃子（理事）	



秋祭りでの司会。長田委員が頑張りました



秋祭りの受付。すっかり慣れました



診断士祭り実行委員





## 千葉県協会の将来展望

### 広く多くの人から頼られる 協会となり続けることを目指して

一般社団法人 千葉県中小企業診断士協会  
副会長 山本 満

一般社団法人千葉県中小企業診断士協会の設立60周年記念に際しまして、一言寄稿させていただきます。まずは協会の礎を築いてくださった諸先輩並びに会員の皆様の弛まないご努力・ご尽力、そして行政、支援機関、団体、金融機関等々の皆様の常日頃からのご高配に、協会執行部の一員として心より厚く御礼申し上げます。

#### ●魅力ある千葉県とともに歩む中小企業診断士

私共協会の会員が活動を拠点とするわが千葉県は、アジアのゲートウェイとして機能する成田空港、アクアライン・圏央道が一体となった広域的な幹線道路ネットワークなどを擁し、これを基盤とし国内外の多くの人々が集う活力ある社会へと成長を続けているものと考えます。また豊かな自然、名所・旧跡や祭りなどの文化をはじめ多岐に



新入会員研修会にて



わたる魅力を併せ持つ地域とも認識しております。このような背景のもと、地域の強みや特徴を生かした産業が活性化しており、県内で産声をあげた独自の技術や新しいビジネスモデルを基盤とした事業が継続的に生まれてきているのではないかと考えます。県内の中小企業の皆様も、地の利や特徴を生かした事業を強化することによって、力強い産業活動を展開し続けているものと考えます。そしてこのような中小企業の皆様の将来に向けての発展に寄り添って、一緒になり悩み汗を流し、そしてその成功の喜びを分かち合えるパートナーになることが私共千葉県の中小企業診断士たる使命なのではないかと考えます。



街づくり研究会忘年会にギタリストとしてサプライズ参加した山本副会長

#### ●中小企業診断士が求められること

さてここで私なりの中小企業診断士という仕事・役割についての所感です。私共診断士は、他のいわゆる“さむらい業”とは違い第〇号業務のような定められた独占業務を持ちません。これが意味するところは様々あるかと考えますが、私は“定められた独占業務というものがわれわれに期待されているところではない”ということなのではないかと考えます。経営とは生き物のように、内的要因、外的環境の変化に伴い、刻々と姿を変えていくものと考えます。このような定型のやり方だけでは対処しきれない経営という生き物に立ち向かうべく、多角的な知識をベースに柔軟に物事に対処できるような素養を試され資格保有者になっ



秋祭りにて。閉会挨拶

た者が私共診断士なのではないかと考えます。

千葉県に限らず、我が国は今、人口減少や高齢化の進展、働き方改革など“生き方”にか

かわってくる価値観の変遷、IoT、AIなどに代表される第4次産業革命の到来などにさらされ、混とんとした新たな時代を迎えています。このような時代に、どのように経営の歩を進めるべきか経営者の皆様と一緒に悩み、考える役割を担っていくことを期待されているのが私共診断士なのではないかと考えます。

#### ●千葉県を発信源とする経済活性化の進展を目指して

私は千葉県中小企業診断士協会が、会員の皆様が上記のような難しい役割を務めあげるための一助となるような様々な会員サービスや支援を提供できる組織であり続けることを願います。そして会員の皆様によって県内の中小企業の皆様が活力を得ることで、千葉県を発信源とする経済の活性化が進展することを願ってやみません。

今後100周年またさらにそれを超えても、広く多くの人から頼られる協会となり続けることを目指したいと存じますので、関係各所の皆様におかれましては、引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。







## 千葉県協会の定例イベント・研修会 ～これからも魅力的なイベント・研修会を企画していきます～



春の診断士まつり



定時総会



新入会員研修会



協会研修



理論政策更新研修

月	イベント・研修会
4月	春の診断士祭り
	千葉県協会定時総会
6月	総会研修
	新入会員研修会
7月	協会研修
8月	講師養成講座
9月	秋の診断士祭り
7月～9月	理論政策更新研修 (全3回)
7月・10月	ポリテクセミナー
10月	講師オーディション
	診断士の日イベント
11月	知的資産経営研究会 全国サミット (今年度は千葉県で開催)
	研修旅行
1月	新春懇親会



秋の診断士まつり



ポリテクセミナー



講師オーディション



研修旅行



新春懇親会

## 編集後記

「60周年の記念誌を作ってほしい」、そう今井会長から依頼があったのは4月でした。  
千葉県協会として今までの活動を記念誌としてまとめるのは初めての試みであり、また資料が乏しい中、どんな記事がよいのか、会長をはじめみなさまと議論を交え、準備をまいりました。  
会員の中から「60周年記念誌編集委員」を集い、我こそと集まった10名の優秀なメンバーと一緒に、「アットホームでフランク」「顔が見える」千葉県協会ならではの記念誌を意識しました。  
9月7日、理事会で内容案を承認いただき、翌8日編集会議を開催してラストスパートと思った矢先、9日に千葉県を未曾有の台風が襲いました。この編集後記を書いている9月現在も、千葉県の多くの世帯は停電や断水が続いており、家屋損壊などの被害はさらに拡大しています。この場をお借りして被害にあわれた方々の一日も早い復旧をお祈りいたします。  
そうした自然災害にも負けず、関係各位の多大なるご協力のもと完成した60周年記念誌をぜひお目通しいただきたいと思います。  
千葉県協会は今日から新たなステージへ突入していきます。

60周年記念誌編集委員長(会員支援部理事) 桂川 慎一

### 60周年記念誌編集委員

(順不同、敬称略)



桂川 慎一(編集委員長)、下田 由美、相野 千乃、山ノ上 伸二、香川 大輔、里川 基  
渡辺 裕、田村 将史、松村 浩伸、星野 盛雄、川瀬 朋子

### 会員支援部理事

(順不同、敬称略)

斎藤 宏樹(部長)、庄司 桃子、小森 健一郎、桂川 慎一

## 一般社団法人 千葉県中小企業診断士協会 60周年記念誌

### 発行

一般社団法人 千葉県中小企業診断士協会 今井 和夫

### 編集

60周年記念誌編集委員

〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央3丁目10番6号 北野京葉ビル3階

TEL 043-301-3860 FAX 043-306-3915

E-mail: info@chiba-smeca.com

web: http://chiba-smeca.com